

Vol.6 ギターのスケールはずらすだけ

こんにちは、大沼です。

『Vol.6、ギターのスケールはずらすだけ』と言う事で、やっていきましょう。

前回、

- ・G メジャーペンタ/E マイナーペンタ
- ・D メジャーペンタ/B マイナーペンタ

の、この辺りのペンタトニックスケールも弾いてみてほしい、
と、というようなことを書きましたね。

現状、C メジャーペンタ/A マイナーペンタをマスターしていて、
『トニック』の意味が理解できていたら、
上の2つ(4つ)のポジションは全て弾けます。

本当はポジション画像を載せたかったんですが、ちょっとこれを読んでいるあなたに
自力で考えて欲しかったので、あえて文章だけにしてほかしました。

前回の内容だけで、上の2つ(4つ)のスケールをどう弾けばよいのかが分かったら、
これまでの内容を理解できている、と言えるでしょう。
(分からない場合、僕の説明力不足という可能性もあるので、その時は質問をください)

さて、では今回は、『トニックを変えてスケールをずらす』という事について、
やっていきましょう。

どこかで聞いたことがあるかもしれませんが、ギターでは、
『スケールを覚えたら、それをそのままずらすだけで全ての key に対応できる』
と言う話があるのですが、これは本当です。

実際に、ペンタトニックの5ポジションを全て覚えているあなたは、
現時点で12個あるkey全てでペンタトニックが弾けます。

今回はそれらの、『覚えたペンタニックスケールのポジションをずらして、全 12key(キー)全てで弾けるようになる』為の、基本的な考え方を学びます。

※Key についてはまだちゃんと解説していませんので、key=C(メジャー)の曲だったら C メジャーペンタを使うんだ、とか、key=Am の曲だったら A マイナーペンタを使うんだ、とか、そのくらいの認識で OK です。

ハッキリ言ってしまうと、”スケールを弾き始めるトニックを変えるだけ”なのですが、『ずらせば良いんだろ』と思っているのと、『トニックを変えて弾き始めるんだ』と知っているのでは、後者の方が圧倒的に認識レベルが高いので、そちらで覚えておいてくださいね。

では、いきましょう。

□C メジャーペンタ、A マイナーペンタのときのトニックの位置□

さて、『トニック』とは『主音』のことでしたね。

C メジャーペンタなら C 音、A マイナーペンタなら A 音がトニックです。

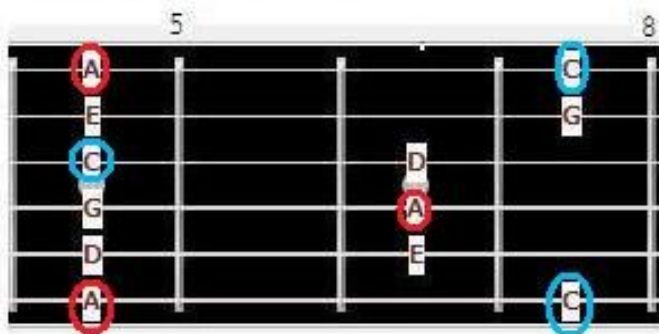
スケールを弾く時に、トニックの位置を把握していることは、非常に大事なことになってきます。

以下の図でそれぞれのトニックの位置を確認してください。

・C メジャーペンタ/A マイナーペンタ、第 1 ポジションのトニック

青○ : Cメジャーペンタのトニック

赤○ Aマイナーペンタのトニック



この様に、先に書いたとおり、C音、A音がトニックなので、この位置ですね。

スケールを弾く時は、ポジションによって把握しやすいトニックの位置が違うので、その辺りは、各ポジション、自分で弾いて見やすい位置を決めましょう。

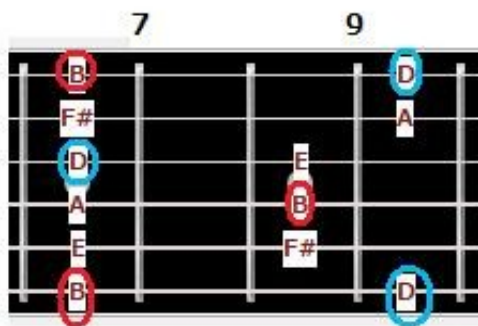
このポジションだと、最初は6弦(と1弦)のトニックが一番把握しやすいと思います。
(慣れてくると、ここのCメジャーペンタは3弦のトニックも見やすいです)

じゃ、『スケールポジションをずらす』、『トニックを変えて弾き始める』とはどういうことなのか？

前回のメールで弾いてみて欲しい、と書いた、Dメジャーペンタ/Bマイナーペンタで見てみましょう。

・Dメジャーペンタ/Bマイナーペンタ第1ポジション

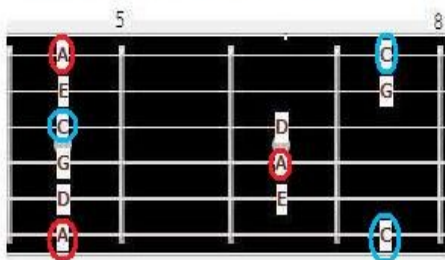
青○：Dメジャーペンタのトニック
赤○：Bマイナーペンタのトニック



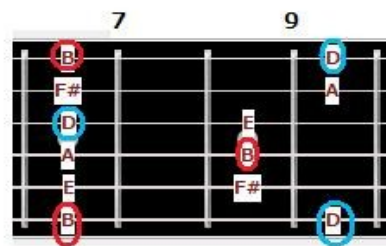
Dメジャーペンタ/Bマイナーペンタの場合はこの場所になります。

見ての通り、Cメジャーペンタ/Aマイナーペンタの第1ポジションと同じ形で、そっくりそのままDメジャーペンタ/Bマイナーペンタのトニックの位置までずれてきていますね。
(今回はCメジャーの形から2フレット右にずれている)

青○：Cメジャーペンタのトニック
赤○：Aマイナーペンタのトニック



青○：Dメジャーペンタのトニック
赤○：Bマイナーペンタのトニック



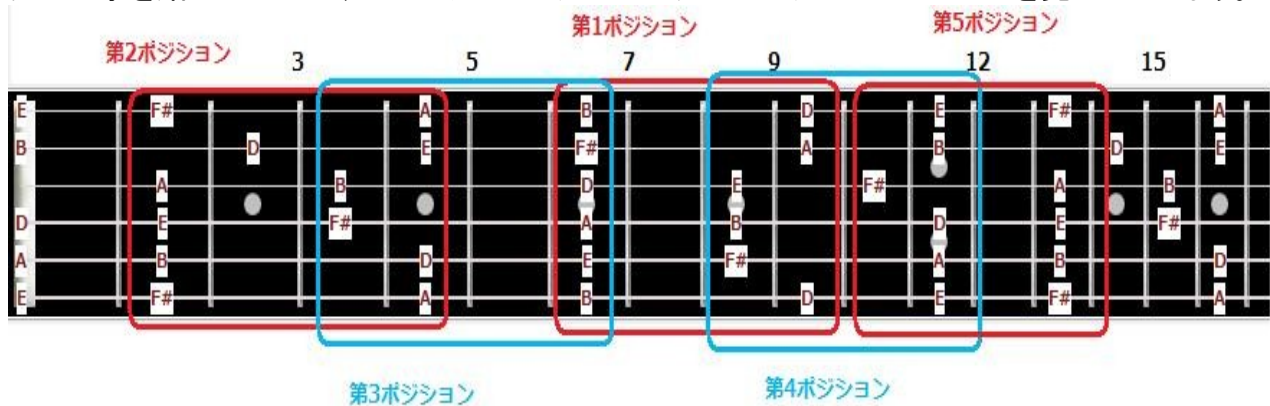
これが、『ギターではスケールを覚えたらそのままずらすだけで全ての key に対応できる』
と言う話の所以です。

で、ここで重要なのが、先にも書いたとおり、
『ずらせば良いんだろ』と考えるのではなく『トニックを変えて弾き始めるんだ』と考えることです。

ちゃんとDメジャーペンタ/Bマイナーペンタを弾く時は、
Dメジャーペンタなら、トニックのD音の位置、
Bマイナーペンタなら、トニックのB音の位置を意識しておきます。

このように、ギターは覚えたポジションを平行移動(=そのまま左右にずらす)だけで
全 key で弾ける為、ピアノなど他の楽器と比べて、かなりスケールが覚えやすい楽器といえます。

以上の事を踏まえた上で、Dメジャーペンタ/Bマイナーペンタの全ポジションを見てみましょう。



DメジャーペンタのトニックであるD音、BマイナーペンタのトニックであるB音を把握しながら、
5つのポジションを練習してみましょう。
(※ポジション番号は、このテキストで解説した順番と使用頻度に基づく独自のものです)

さて、これがスケールのポジションをずらす(始めるトニックを変える)ことの
基本的な考え方です。

今回やったとおりに、トニックを変えてポジションをそのまま見るだけで、
一応、全 12key に対応できるわけです。

なので、トレーニングとして、色々なトニックからペンタトニックスケールを弾いてみる、
と言うことをやってみて欲しいと思います。

例えば、

E マイナーペンタの第 1 ポジションは？ A メジャーペンタの第 2 ポジションは？
B ♭ メジャーペンタならば？ F# マイナーペンタならば……？

みたいな感じで、トニックを変えて、指板上の色んなポジションで、
ペンタトニックスケールを弾いてみてほしいのです。

で、前にも書きましたが、今回やった D メジャーペンタ/B マイナーペンタと、
G メジャーペンタ/E マイナーペンタ辺りは特にギターメインの曲で使用頻度が高いので、
弾き込んでおいてほしいな一と思います。

(※後は E メジャーペンタや A メジャーペンタ辺りも、ギターでは良く使いますね)

さて、では今回は以上になります。

なんでもそうだと思いますが、今回のような、**新しい概念を覚える時**が、
一番学ぶのにエネルギーが必要です。

頭で考えなくちゃいけませんからね。

ですがそこを乗り越えてしまえば、その後はラクになって行きます。

以前、『ペンタの譜例を沢山やっていく』みたいな事を書きましたが、
世の中、C メジャーペンタ/A マイナーペンタのポジションを使っている曲ばかりではないので、
どうしても他の key の曲をやることになります。

なので、色んなポジション(トニック)からペンタを弾くことが出来るように、
今回の内容をキチンと理解しておいてくださいね。

今後は引き続き、ペンタの譜例をやったり、key やコードなど、
基礎理論的な部分の解説と活用の仕方をやっていきますので。

では、何時ものことですが、分かりにくいことがあったらメール、コメント等で質問してください。

ありがとうございました。

大沼